古典に楽しませる学習指導の試み

――「伊勢物語」の実践――

江藤結花

一　はじめに　生徒の実態と試みの理由

一九九一年度に担当した一年生三クラス（一四七名）に、四月、次のことを尋ねた。

。古典が好きか、嫌いか、理由も含めて
。なぜ古典を学ぶのだろうか。

結果

。好きと答えた生徒　三四名
。嫌いと答えた生徒　一一三名

約八割の生徒が中学校から高等学校に進学した時点ですでに古典嫌いなのである。教壇に立ったばかりの私はこのような現状にショックを覚えた。嫌いな理由として生徒達は次のことをあげた。

。言葉が難しくて意味がわからない
。文法、文学史、冒頭文など覚えることが多い。
。これからの生活に役に立つとは思えない。
。昔のことを知るのには日本史だけで充分

整理してみると

。言語に対する抵抗がある。
。知識偏重に対する抵抗がある。
。自らの生活と直接に結びつけにくい。

ということが生徒達の古典嫌いの主な理由である。これらが古典の内容に触れる以前の障害となっている。また、あらゆる場面で受身的な立場に立たされ、そのことに慣れきっている生徒達は古典を自らとかけはなれた存在として意識して「教えられなければわからない。」「自分には昔の人の考え方なんて理解できるはずがない」と思い込んでいる面がある。

一方、好きな理由としては

。簡潔な文章の中に複雑な心境が伺える。
。独特のリズムや言葉の持つ優しい響きが好きだ。
。現代人にはないセンスを感じる
。昔の人の生き方、考え方に魅かれる
。昔の人は何に感動し、どう感じたのかに興味がある。

またその感動を自分も味わえた時に喜びを感じる。
。自分なりに解釈できるところ、想像できるところが好きだ。

などが挙げられている。生徒達は古典の

。過去に生きた人々の想いや生き方に触れることができる。
。現代（言語・文体・思想・生き方等）を相対化できる。
。想像をふくらませながら読むことができる。

という様な側面に魅力を感じているようだ。古典好きの生徒達は、古典の文化的価値をとらえ、古典のおもしろさを実感しているように思われる。好きだと答えた生徒達は、相当高い段階において内容把握ができているともいえる。

またなぜ学ぶのかについては

。大学受験のため。
。日本古来の文化を継承していくため。
。温故知新。

と答えている。大学受験のため仕方なく、という答えは生徒の本音であろう。現代に生きる生徒にとっては、古典は英語よりも難しい教科であるらしい。英単語テストより古文単語テストの方がはるかに得点率が低い。また合理的、現実的な生徒達は、自分にとって即役に立つか、立たないかで物事の価値を判断してしまう面がある。そのような生徒達にとっては「古典は嫌いだけれど、入試に必要だから、とりあえず、言われたことは書きうつして覚えてしまおう。」と考えるのは当然のことなのかもしれない。しかし、古典嫌いの生徒達は、古典そのものではなく、古典を読むための知識のところでひっかかり、投げ出している様に思われる。古典好きの生徒達は内容を把握し、その魅力を問題にしている。内容のおもしろさにふれた時、「おもしろくない。」「嫌い。」と拒絶ばかりしている生徒の意識も少しは変化するのではないか。できるだけ読む前の段階のひっかかりを解消する手だてをし、内容のおもしろさにふれさせ味わわせれば、すんなり古典の世界にはいっていけるのではないだろうか。読んでみたいな、と思わせれば、詳しく読むために言語的知識の必要性を自ら感じ、学ぶ意欲も湧いてくるのではないだろうか。一年生の段階で、一度でも「古典っておもしろい。」と思って欲しい、そして一人でも古典嫌いの生徒を減らしたいと思い以下のような拙い試みを行った。

二　教材と授業のねらい

1　**単元**「伊勢物語」に描かれた愛の形

2　**教材**「東下り」（第九段）
　　「筒井筒」第二三段）
　　「梓弓」（第二四段）
　　「大和物語」（一四九段）

（参考として、六段、十二段、四五段、六十段をプリ

ントして配布）

3　教材観

「伊勢物語」は簡潔な文章の中に素朴で美しい人間の真情が描かれている歌物語である。具体性、個別性が限りなく薄く、そのことによって人間の内面が強調されている。全体のおよそ三分の一以上が恋愛談であるが、男女の心の動きと高まりが、そぎおとされた文章によって強く読み手に迫り深い感銘をあたえる。また行間を読みこみ、想像し、自由に作品世界を構築することのできる作品でもある。このような特色によって、古来より多くの人々に愛され親しまれ、多くの文学や芸術に影響を与えてきたのだろうと考える。

4　教材としての価値

比較的平易な語、一話完結の形式なので言語的抵抗をあまり感じさせない作品である。簡潔素朴な文章である為、書かれていない部分を自分なりに想像し、読みを創造する楽しさを味わうことができる。常に受身の生徒達にも自らの想像力を働かせて積極的に作品を読む楽しさを感じさせることができるのではないだろうか。またいずれも男女の愛が描かれている。この年代の生徒達は恋愛に関心を持っているので、興味を持って作品を読むのではないだろうか。しかし、生徒達の考えている「愛」は非常に軽い。言葉やイメージだけが先行し、その雰囲気を楽しんでいるに過ぎない。そんな生徒達に本当に人を愛するとはどういうことなのかまた自らの愛に対する考えを深めるきっかけを与えることができるのでは、と考えた。特に二三段、二四段に描かれた女性の愛に生きる姿は生徒達に驚きや感動を与えるに違いない。現代に生きる女性との違いや、自分達の心の中にも流れている「伊勢物語」の女性達との共通の感情を発見し、千年もの時を超えて、想いを共有できる古典に魅力を感じるのではないだろうか。伊勢物語はこのように様々な可能性を含んだ魅力的な教材であるといえよう。

5　授業のねらいと単元の目標

古典に親しませることを目標とした。

そのために

。魅力ある作品による内容把握を中心とした授業を試みる。（原文のまま味わわせる。言語的事柄を最低限に絞って指導する。登場人物の心情を想像させ自由に発言させる。）

。生徒が主体的に作品を読み味わえる工夫をする。（レポート集制作）を試みた。

そのための単元目標として

。真実の愛に生きようとする人間の姿を読みとり、自らの愛に対する思いを深めさせる。・人物の心情を想像力豊かに読みとり作品の世界に浸り、古典を読む楽し

さを味わわせる。
を設定した。

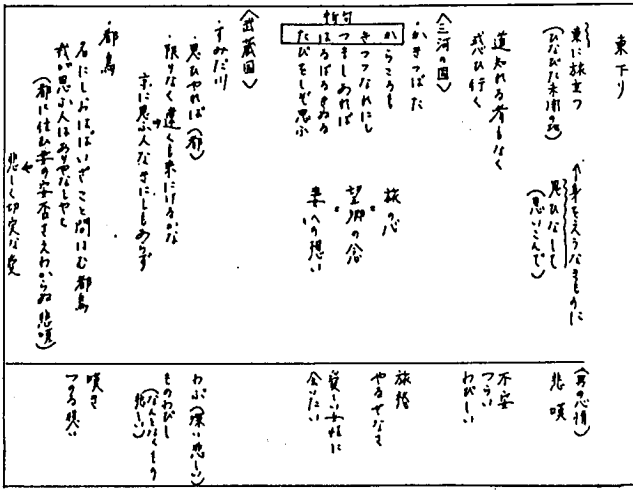
三　授業の実際

1　指導計画

第一次　東下り　（一斉授業）
第二次　筒井筒　（一斉授業）
　　筒井筒と大和物語の比較
第三次　梓弓　（一斉授業）
第四次　レポート制作（個別作業）

2　指導案

。教材「東下り」
。指導目標
・旅の困難さとそれに伴う望郷の想いを読みとらせる。
・都に残した愛する女性への切実な想いを和歌を中心に読みとらせる。
。展開
・男があづまへ下った理由を押さえる。
・当時の旅の困難さを想像させる。また男の旅はどうだったかを押さえその心情を想像させる。
・国ごとに何を見、どう感じ、どうしたかを整理しながら読ませる。
・男にとって「旅の心」とは何を意味するのか。「かきつばた…」の歌の主題を明らかにし男の妻への想いを読みとらせる。
・「わぶ」「ものわびし」の押さえ
・「名にし負はば…」の歌から男の切実な気持ちを読みとらせる。
。板書



。教材「筒井筒」

。指導目標

・幼なじみの二人の清純な恋を読みとらせる。

・一途で献身的な女の愛を読みとらせ愛について思いを深めさせる。

。展開

・第一段落における男と女の関係をおさえる。

・女の強い思いがどこにあらわれているか確認する。

・歌にこめられた二人の心情とそれぞれの人柄を想像させる。

・第二段落における二人の行動と心情を整理する。

・当時の結婚形態を確認する。

・二人の心情を想像させる。

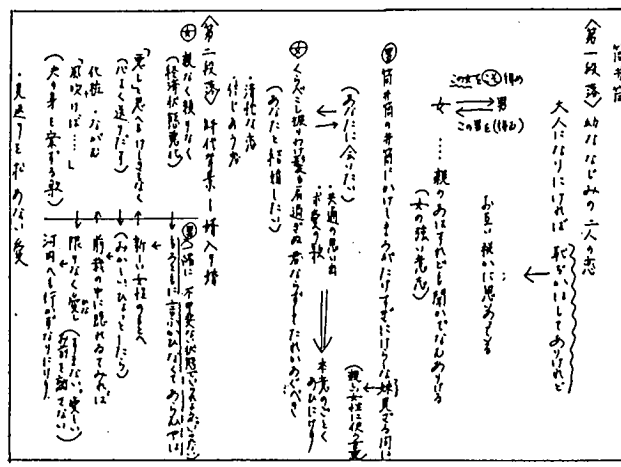
・和歌によみこまれた女の心情を読みとらせる。

・男が再び女のもとへ戻った理由を考えさせる。

・「かなし」の押さえ。

・男と女。それぞれについてどうおもったか。またこの段に描かれている愛についてどう思うか。自由に意見を発表させる。

。板書



○教材「筒井筒」「大和物語」(一四九段)

○指導目標

・一四九段と比較することにより、伊勢物語の特色を実感させる。

○展開

・口語訳つきの大和物語を読む

・伊勢物語と違うと思われる部分に線をひかせる。

・次の項目にしたがって比較し整理する。

・男が河内へ行った理由

・女の態度、心情

・女の態度を男はどう考えているか。

・男が河内へいかなくなった理由。

・女についてどう思うか。

・表現の違い。

・読者に与える影響

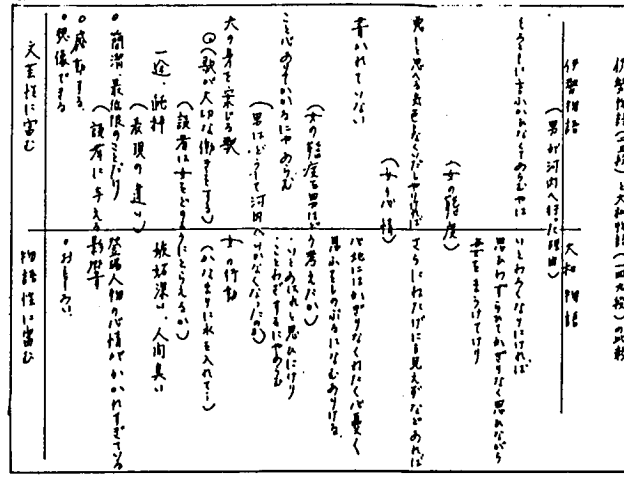
○伊勢物語の特色を整理する。

・簡潔な文章であるので想像しながら作品を味わえる

・歌が重要な役割をはたす。

・文芸性に富む。

○板書



○教材「梓弓」

○指導目標

・歌にこめられた二人の心情とどういう気持ちで歌を詠み、相手の歌を聞いた時どのように想ったか。想像させながら読ませる。

・男と女の真実の愛に生きようとする葛藤を読みとらせ、時として悲劇にもなり得る愛の奥深さについて考えさせる。

○展開

・三年間、夫を待ち続けていた女の心情を想像させる。

・待ちわぶの押さえ

・「あけで」の女の気持ちを想像させる。

・歌にこめられた気持ちを押さえる

・どういう気持ちからその歌を詠んだのか。

・おさえていた女の感情は何をきっかけに流れだしたのか。

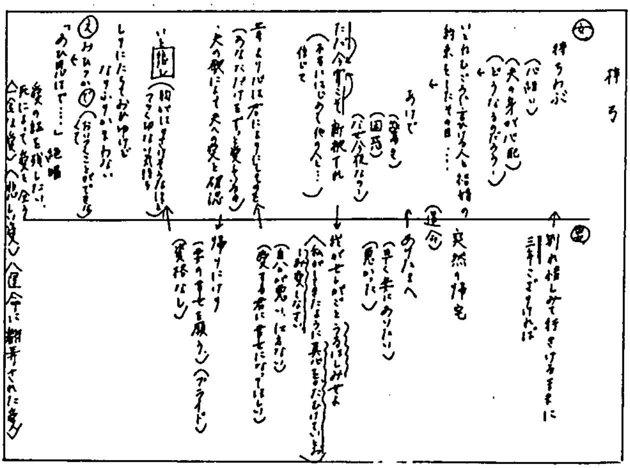
・かなしの押さえ

・指の血で書き残した「あひ思はで」の歌には女のどのような感情がこめられているか。・女は何を考えながら死んだのだろうか、想像させる。

・悲劇をうみだした原因を考えさせる。

・梓弓の女性の愛についてどう思うか、自由に発言させる。

○板書



四　レポート集制作について

一斉授業終了後、課題を設定し、レポート集を制作した。浮橋康彦先生が「古典を主体的に楽しく学習させるために」実践された「リレー小説梓弓」をヒントに創作文の課題を設定した。創作の他にも次のような観点から合計八つの課題を設定した。

〈観点〉

ⓑ「伊勢物語」という作品を生徒自身にとらえなおさせる課題

ⓒ平安時代に生きる女性の姿や愛の形が現代に生きる自分達の心の中にもあるのではないか。また違っているところはどこかを考えることによって自らの在り方や現代を問い直させるきっかけをつくる課題。

ⓓ「伊勢物語」学習終了後の愛についての自分の考えを整理させる課題

〈課題〉	〈観点〉	〈選択した人数〉
①筒井筒の物語化	ⓐⓑⓒ	29名
②梓弓の物語化	ⓐⓑⓒ	25名
③伊勢物語における歌と本文のかかわりについて	ⓑ	2名
④筒井筒と大和物語の比較	ⓑ	14名
⑤筒井筒と梓弓の比較	ⓒⓓ	22名
⑥伊勢物語に描かれた愛の形について思うこと	ⓒⓓ	22名
⑦伊勢物語に描かれた愛の形と共通した他作品をさがし比較する	ⓒ	5名
⑧伊勢物語の学習によって愛に対する考え方に変化はあったか。今考えている愛について書きなさい	ⓓ	28名

書くにあたっての指導は、ほとんど行っていない。参考として「リレー小説梓弓」を読んだ。生徒達は「すごい」「おもしろい」と湧き書く意欲をもったようだ。書けないという生徒に対しては個別に指導した。

五　生徒作品例と考察

1　考察の観点

次の二点の観点で課題①②を考察し、生徒達が古典にどのような親しみ方をしたか考えてみたい。

A　生徒達は作品のどこに魅かれ、どのように膨らませて読んだか。

B　伊勢物語の女性が生徒達によってどのように再現され、どのように生徒達の心に生きていたか。

2　生徒作品例

番号②　吉澤版「梓弓物語」

昔から、いろいろな愛の形があったことでしょう。そして愛が強ければ強いほどより多くの悲しみが生まれていたことでしょう。私がそのことを強く考えるようになったのは、私の住んでいるこの村にある一つの岩にまつわる物語を聞いたときからです。その岩には、血で書かれたと言われている歌が残されています。

～あひ思はで　離れぬる人をとどめかね
　　我が身は今ぞ消え果てぬめる～

今から、この悲しい歌にまつわる物語をしたいと思います……。

昔、とても誠実な男と、その男を心から愛している美しい女とが田畑しかないこの村の山奥にひっそりと暮らしていたそうです。二人はとても幸せでお互いをこの上なく大切にし合い、本当にこんなにも幸せで良いものだろうかと悩むほどでした。

しかし、ある日男は宮中に仕えるために女と離れて暮らさなくてはならなくなったのです。男が女との別れを惜しみながら村を去った後、女は毎晩毎晩男のことを思い泣いて暮らしたそうです。女が一日千秋の思いで男の帰りを待ちわびている間に三年の年月が過ぎました。その頃になると、男手のない女の家のことをいろいろ親切に世話してくれていた男が、

「三年も手紙一つよこさないような男とは別れ、私と共に暮らしませんか。必ず幸せにします。」

と毎日のように言い寄ってきたのです。女は、自分の夫を悪く言うことに反発しながらも、その男からの愛を感じ、とうとうある日、

「今夜お会いしましょう。」

と約束をしたのです。女はその日、家のことも手につかず、一人で山を眺めながら、小鳥のさえずりに耳を傾けていました。

さて夜も更けた頃、戸をたたく人がいます。

『とうとう来たわ。』と女は思い、戸口へとかけ寄りました。すると

「戸を開けて下さい。」

とうれしさに震えた声が聞こえてきました。

女は、この声は自分が三年間待ちこがれていた愛する夫の声だ。と思い、高なる胸をおさえながらすぐ戸口に手をかけようとしました。

しかし、女は自分が今夜他の男と会う約束をしていたことを思い出しました。女は、胸がはりさけるような思いで男に対して、このような歌を詠んだのです。

～あらたまの　年の三年を待ちわびて
　　ただ今宵こそ　にひまくらすれ～

（三年もの歳月、ひたすらあなたの帰りを待ちわび
て、ちょうど今夜初めて共寝をするのですよ。）

これを聞いた男は、例えようのないほど深く傷つき、自分が心から愛した女の幸せを願い、そして共に暮らした

日々を思いながら
～梓弓まる槻弓年を経て
　　我がせしがごと　うるわしみせよ～
（長年の間、私がしてきたようにこれからは新しい人を愛しんで暮らしなさい。）
という歌を残し、家に背をむけたのです。その歌を聞いた女は自分の胸に潜んでいた夫への深い愛に気づき、
～梓弓　引けど引かねど昔より
　　心は君によりにしものを～
（私の心は、ひいてもひかなくても関係なくずっとあなたに寄せておたよりしていましたのに。）
と歌を詠み、自分の心はいつもあなたのもとにあったのだ。ということを告げたけれど、男は傷ついた暗い心をひきずりながら、真っ暗な夜道を去っていったのです。女は、息ができないほど、胸がはりさけそうなほど辛い思いで、わらじもはかずに家を飛び出し、男の後を追ったのです。その頃は、明かりなどあるはずもなく、わずかにもれる月明かりのみを頼りに、女は無我夢中で男の姿を月明かりに見出そうとしました。足には血が滲み、目からは女の押さえることのできない愛を物語るように大粒の涙がハラハラと落ちていきました。どのくらい走ったのでしょう。女は強い目まいを感じ、その場に倒れ伏しました。側には清水がわき出ていましたが、女はそれを飲むことができませんでした。
女はすぐそこにある水も飲めないほど疲れている自分の体と、海よりも深く傷ついている自分の心に命の火が消えかけているのを悟りました。そして、男と結婚の約束を交わしたときにした指切りを思い出し、その小指をかみ、その血で自分が横たわっている岩にこう書きつけたのです。
～あひ思はで　離れぬる人をとどめかね
　　我が身は今ぞ消え果てぬめる～
（同じように愛し合わずに離れていってしまった人を引きとどめかねて、私の身は今消え果ててしまうようです。）
書き終えた女は、愛する男と暮らした夢のようだった日々を思いながら、深い深い眠りについたそうです。女の亡骸の横で清水は、女の決して枯れることのない愛を象徴するかのようにこんこんと湧き出ていたそうです。そしてその流れは今も絶えることはありません。
私は、きっとこの村に残された岩は、この物語の中の自分の愛を貫いた女と共に多くの人々に本当の愛とは何なのかを問いかけてくれるのではないかと思っています。

3　考察

A　この生徒は「梓弓」から愛の悲しさを詠みとりそこに心魅かれて創作を行っている。宮仕えに行ったまま三年もの間、音沙汰なしの夫を待つ女の様子を「毎晩毎晩、男のことを思い泣いて暮らしたそうです。」「一日千秋の思いで男の帰りを待ちわびた」と描いている。また歌を詠みかわす場面での二人の心情は、「胸がはりさけるような思い」であったり、「例えようのないほど深く傷ついた」思いであったりする。このように、つらく悲しい心情を想像して書き加えている。「女いとかなしくて、しりにたちて追ひゆけど」の部分については女の心情や夫を追っている様子をイメージ豊かに読んでいる。「息ができないほど胸がはりさけそうなほど辛い思い」で夜道を血を滲ませ涙を流しながら走る女の姿はもの哀しい。また「あひ思はで離れぬ人をとどめかね我が身は今ぞ消えはてぬめると書きて」と「そこにいたづらになりにけり」の間を想像して書いている。前半は女のつらく悲しい心情を中心に書いていたが死ぬ時の心境は「書き終えた女は愛する男との夢のようだった日々を思いながら深い深い眠りについたそうです。」と自分の想いを書き残し愛を成就し終えた後の女の心境を安らかなものとして描いている。この生徒は「梓弓」の女の生き方に共感し心を打たれ、そして、女の愛を貫く姿に貴さを見出し、悲しいだけの物語に終わらせたくなかったのではないか。「女の亡骸の横で清水は女の決して枯れることのない愛を象徴するかのようにこんこんと湧き出していたそうです。そしてその流れは今も絶えることはありません。」の部分は全くの創作である。「いたづらになりにけり」の後に創作を加えた生徒は多かった。例えば「空には幾億もの星と青い月とがぼんやり輝きその間を何かを追っていくかのように一筋の流れ星が走るのであった。」「夕暮れはもはや夕闇にかわり辺りには清水の汚れなき清らかな流れの音が寂しげに響き渡っていた。」など美しくしめくくろうとしている。生徒達は課題⑤⑥を分析すると「梓弓」を「純粋で深い愛」「哀しく切ない愛」と受けとめている。「そこにいたづらになりにけり」とは、あまりにあわれな終わり方である。純粋な愛と女の姿にふさわしく美しいラストを描こうとしたのであろう。この作品に描かれている哀しくも美しい心情に深く感銘をうけているといえるのではないだろうか。

B　この生徒は梓弓の女を哀れな女、哀しい愛に生きた女ととらえるだけでなく、愛に生きたことで強さや貴さを持った女と考えているように思われる。また「自分の愛を貫いた女」「本当の愛とは何なのかを問いかけてくれる存在」と評価している。課題⑧を選択した生徒の中には「最近は〝純愛〟っていうのが流行ってるけど、いくらその人が好きでも「梓弓」にでてきた女の人のように死によって愛を貫く人はいません。昔の人は何事にも　一

生懸命でそういう所を今の人は習わなければならないと想いました。」という意見をもった生徒や「私はまだここまで一人の男を愛したことがないから本当の愛なんてわからないけれどきっとこんな一途な愛を本当の愛っていうのだと思った。いつか人を愛するときはこんな愛し方ができたら最高だと思う。」と書いた生徒がいた。梓弓の女は現代の生徒達に本当の愛とは何かを考えさせるきっかけを与えた。この生徒の心の中にも「本当の愛とは何なのかを問いかける存在」として梓弓の女は生きつづけるのではないだろうか。

六　反省及び今後の課題

1　古典に親しませるという目標で授業を行ったが作品の持つ力に助けられ生徒の反応は活発であったと思う。しかしそこから踏みだしてより深く作品を味わうというところまでは至らなかった。発問や手引を工夫する必要がある。また言語事項と内容をかかわらせていくことを考えていきたい。

2　レポート集を製本して満足してしまった。レポート集を活用して生徒達の読みを深めることはできないであろうか。

3　レポートを書くにあたっての手引が必要である。口語訳になってしまったものや原典と著しく趣が異なってしまった作品があった。書くことによってもう一度作品をとらえ直し考えを深めていくことのできる工夫を考えなくてはならない。また課題設定が甘かった。例えば③伊勢物語における歌と本文とのかかわりについてという課題はテーマが大きすぎて難しい。選択した生徒はわずか二名であった。もっと絞った課題を設定すべきであった。

生徒達はこの試みを通して少しは古典に親しんでくれたのであろうか。その後、何人かの生徒が「伊勢物語」を読んだと伝えてくれたこと、この報告を書くにあたって学校でレポート集を読んでいると、今は三年生になった生徒達が「懐かしい。私達が書いたんよね。」とよってきて話がはずんだことが救いである。

古文＝暗記＝つまらないという意識をもたせず、古文に親しませ、読みを深め、そのことによって自らの生き方を深めることのできる授業を目指して努力していきたい。

（安田女子高等学校）

資料①

伊勢物語を読み、まず驚いた事は登場人物の純真さと一途な愛です。現代の愛と違いもたくさんあると思います。筒井筒で幼い頃、一緒に遊んできた男女が年頃になると恥ずかしくなる所なんて今と変わらないと思います。違いがあるのではと思う部分は夫が別の女のもとへ通いだしても女は嫉妬する様子も無く、夫の身を心配する姿です。この様な女性は今では少ないのでは…と思います。梓弓では、女は自分の意志で死ぬ事によって一番大切な物を守り通したと思うし、男の方も自分の愛を犠牲に、愛する人の幸せを願うなんて、とても深い愛だと思います。こんな愛の形もあるのだと感動しました。

現代の愛も素晴しいと思うけど私は伊勢物語に見られる質朴で一途な愛し方ができたらと思います。

資料②

愛について

愛には、いろいろな形がありますが、どれもこれも昔から姿を変えることなく、受け継がれていることに気付きました。

よくドラマで題材とされる愛の形で最も多く、また、最も美しいとされるのが、女の自己犠牲です。男のために死んだり、身代わりになって逮捕されたり、赤ちゃんを堕ろしたり。どれも筒井筒に共通するものがあると思います。

報いを求めず、尽くすのが日本の愛です。しかし、自分の身を傷つけるような愛は、本当の愛ではないと思うのです。それに、女性の自己犠牲を美しいと思える日本人の感覚は、間違っていると思います。

現代という社会にミツグ君（ちょっと古いけれど）とかアッシー君とかいましたよね。そういうのって、今まで女が男に尽くす社会が続いていたのだから、当然の存在ではないかなぁ…。

ちょっと大げさになるかもしれませんが、女性差別っていうのは、女性の自己犠牲の信念から生まれたのではないですか。

資料③

筒井筒も大和物語も、もとをただせばただのメロドラマである。

男と女が一緒になり、女の財力がなくなる。そしたら男は他に走る。ところが男は女の真実の愛にふれ、帰ってくる。

ざっと筋はこんなもんである。しかし出来上がると、すごい差が生じる。まず、男と女の姿かたち、生いたち。筒井筒はさらっと流しているのに対し、大和物語には、けっこう書いてある。〝顔かたちいと清らかなり〟とか何とか。どの程度美人かは、ちょっとわかりかねるが、まあ美人というんだから美人なんだろう。それに、美人の方が耐える姿もサマになるというものだ。

男が浮気をはじめる動機についても、少々の差異がある。筒井筒には、女が貧しくなったから、ただそれだけ。

男のキモチも何もあったもんじゃない。それに対し、大和物語は、かわいそうに思っていたのだがとか何とか色々、言いわけじみたことが書いてある。言いわけは良くない。言いすぎるとウソくさい。ところが、筒井筒のようにサラッと浮気に走られても困ってしまう。仕方のないこととはいえ、ああいう書き方をされると、一瞬、〝ヒモかっ!?〟などと思ってしまう。

女の姿も様々だ。またしても筒井筒には何も書いていない。ただ、〝いやな顔ひとつせず〟夫を送り出す。そして、大和物語には、ねたましいだの、つらいだの、とある。

ここまでみていくとどうだろう。筒井筒は、話の流れのみをサラッと言い流しているのに対し、大和物語にはゴチャゴチャ色々ある。ところが、だからこそ、何も書いていないからこそ面白いという部分もある。私が、〝ヒモかっ!?〟とか何とか勝手な想像をしたのも、何も書いてないからこそだ。

さて、いよいよ決定的な違いのクライマックスだ。大和物語はもの凄い。嫉妬の炎で、ナベの水がわくのだ。とんでもない方向への飛躍にギョッとしてしまう。よく男は逃げ出さなかったものだ。はっきりいって、こんな女は気持ちが悪い。もう半ばSF化しており、SF以外のなにものでもない。授業中、先生曰く、

「筒井筒は芥川賞的、大和物語は直木賞的」

しかし、SFの文学的地位は低いから、逆立ちしたってもらえないだろう。

まあ面白いのは明らかに大和物語、感動するなら筒井筒だ。大和物語くらいまでひどくなると、古典もわらえるな、と思う。